

扶桑町における今後の公共交通施策について

1 施策の方向性

2019（令和元）年度に実施した公共交通に関するアンケート調査の結果から、現在は、日常生活における移動の不便さを感じていない方や、公共交通がない等の理由から外出を控えたことのない方が多くを占めています。しかしながら、高齢者や鉄道駅から離れた地域に住む方の中には、移動の不便さを感じている方や外出を控えたことのある方が一定数存在し、新たな公共交通の導入が求められていると考えられます。

また、高齢化社会が急速に進展する中、高齢者が健康で生き生きと生活するための介護予防や社会参加、高齢ドライバーによる交通事故防止のための運転免許証の返納を促進していく必要があります。

第5次扶桑町総合計画では、「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」をまちづくりの視点とし、「みんなで“支え合う”～ほっこり暮らせるまちづくり～」、「みんなで“活かす”～住み続けられる・魅力あるまちづくり～」を基本目標に、高齢者福祉、障害者（児）福祉の推進、公共交通の充実といった施策を進めることとしています。

そこで、扶桑町では、総合計画に掲げるまちづくりの実現に向けて、高齢者の外出を支援することを主な目的として、町民の生活に必要な移動手段を確保するため、扶桑町に適した新たな地域公共交通を導入することとします。

【第5次扶桑町総合計画（抜粋）】

基本目標 1 みんなで“支え合う”～ほっこり暮らせるまちづくり～

施策 3 高齢者福祉

①在宅福祉サービス

医療・手当とともに、高齢者への在宅福祉サービスの提供・充実に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように支援します。

④社会参加・生きがいつくり

高齢者の奉仕活動、健康増進、レクリエーション、教養の向上等の地域社会における活動を支援し、地域組織を活用した閉じこもりの予防や生きがいつくりを促進します。

施策 4 障害者（児）福祉

①意識の高揚と活動支援

町民の障害者に対する意識の高揚やノーマライゼーションの普及啓発に努め、保健・医療・福祉の連携と地域住民の協力のもとに、地域の実情に即した障害者の地域生活支援の充実を図ります。

基本目標 4 みんなで“活かす”～住み続けられる・魅力あるまちづくり～

施策 17 道路・公共交通

③公共交通の充実

地域内交通網の形成については、広域連携やまちづくりの視点から公共交通手段の導入を図ります。

2 運行形態・運行システム

(1) デマンド型とコミュニティバス

デマンド型	コミュニティバス
予約に応じたルート・時刻で運行し、乗降場所は自由に設定できる。利用希望時間や目的地によって乗合の形をとる。	決められたルート・時刻で運行し、ルート上に設定されたバス停で乗降する。

◆メリット・デメリット

	デマンド型	コミュニティバス
メリット	・細やかに乗降場所を設置することで、乗降場所までの距離が短くなる。 ・システムにより多様かつ最適なルートが設定でき、目的地までの所要時間を短縮できる。 ・予約制のため、空車運行がない。	・会員登録、予約が不要。 ・需要が高い時間・ルートについては、多数の利用者を輸送することができる。
デメリット	・会員登録、予約が必要。 ・需要が高い時間・ルートについては、予約不成立となることがある。	・場所によっては、自宅から停留所までの距離が長くなる。 ・目的地のニーズに的確に答えられず、乗継の必要が生じることもある。 ・停留所が多くなればなるほど運行ルートが冗長的になり、目的地まで所要時間が長くなる。また、運行本数も少なくなる。 ・空車運行が生じることがある。

下記の理由により、運行形態はデマンド型とすることとします。

- ① 高齢者の外出支援を主目的としていることから、乗降場所を細かく設定することで、乗降場所までの距離が短くなり、利用者にとって利便性が高くなること。
- ② 想定される利用者は町内全域に分布し、かつ、目的地として想定される医療機関や商業施設、公共施設も町内全域に点在していることから、需要に合わせ、多様かつ最適な経路をその都度設定できるデマンド型の方が有効であること。
- ③ 町内に路線バスが運行しておらず、公共交通の利用が必要な場合は、タクシー料金助成制度の利用を始め、タクシーの利用が一般的であり、予約に対する抵抗感は高くないと考えられること。なお、会員登録については、面倒さを解消するための簡易性・利便性の向上に努めることとする。

(2) デマンド型の運行方式

ミーティングポイント型	ドアツードア型
運行ルートは定めず、予約に応じ所定の乗降場所間を最短距離で結ぶ方式。	運行ルートや所定の乗降場所等は設けず、指定エリア内で予約のあったところを巡回するドアツードアのサービスを提供する運行方式。

◆メリット・デメリット

	ミーティングポイント型	ドアツードア型
メリット	・所定の乗降場所を設けることで、タクシーサービスとの差別化や競合回避が可能である。	・利用者の戸口から目的地の戸口まで運行可能なため、乗降場所までの距離を短くできる。
デメリット	・ドアツードア型に比べ、乗降場所までの距離が長くなる。	・タクシーサービスとの差別化や競合回避が困難である。 ・道路形態等により、希望する乗降場所へ車両が侵入できなかったり、停車スペースの安全性を確保できない場合がある。

下記の理由により、デマンド型の運行方式はミーティングポイント型とすることとします。

- ① ドアツードアのきめ細かいサービスを提供するタクシーサービスとの差別化や競合回避が可能であり、既存の交通機関であるタクシーと共存する形で、よりよい地域公共交通サービスの提供が期待できること。
- ② 所定の乗降場所を設けることで、円滑な車両運行及び乗降場所の安全性の確保が可能となること。

なお、ドアツードア型に比べ、乗降場所までの距離が長くなるため、できる限り細やかに乗降場所を設置することで、高齢者等の移動に係る負担を軽減することとする。

(3) 運行システム

◆チョイソコ概要

概要	会員登録された利用者から乗車依頼を受け付け、最適な乗り合わせと経路を計算し、指定された乗降場所で乗降できる送迎サービス
特色	○地域の交通不便を解消し、主に高齢者の外出促進に貢献するデマンド型交通 ・高齢者とのコミュニケーションに優れたオペレーションによる安心運行の実現 ○単なる運行のシステム提供に留まらず、高齢者の健康増進につながる外出促進の“コト”づくりを推進 ・会員に毎月「チョイソコ通信」を郵送し、“お出かけしたくなる”様々な情報を発信 ・“お出かけしたくなる”様々なイベントの仕掛けを事業主体（株式会社アイシン）・自治体・スポンサーと協業で実施 ○民間企業が事業主体となり、エリアスポンサーによる協賛を得ることで採算性を向上 ・民間企業の企画や技術、ノウハウの投入

下記の理由により、運行システムはチョイソコを候補として進めることとします。

- ① チョイソコ通信による情報発信や官民協業のイベント創出により、高齢者の外出を促進することができること。
- ② 事業主体である民間企業の企画や技術、ノウハウを活用して、採算性を向上させることができること。

3 実証運行

扶桑町に適した新たな地域公共交通を導入するに当たり、以下のとおりミーティングポイント型のデマンド交通の実証運行を実施することとします。

(1) 目的

外出しにくい高齢者に対し、新たな移動手段を確保することにより、積極的な外出を促すとともに、自身での自家用車の運転等の代替となり得るものであるかを検証する。

また、高齢者以外の町民に対しても、日常生活における移動の不便さを解消することが可能な移動手段として機能し得るものであるかを検証する。

(2) 期間

2022（令和4）年10月1日から2023（令和5）年9月30日まで

(3) 運行区域

「扶桑町内」又は「扶桑町内及び江南厚生病院」

(4) 運行車両

「10人乗りハイエースワゴン」又は「14人乗りハイエースコミューター」

(5) 検証内容

- ・運行体制
- ・町民の認知度
- ・利用実態（利用者数・乗合率・意見）
- ・既存の公共交通事業、町施策への影響 等